

南シナ海の領有権問題の経緯について（主な事項）

1800年代	英国など列強による南シナ海諸島の調査・測量
1927	日本・フランス、西沙諸島の占有をめぐり対立。中国、西沙諸島占領。
1933	フランス、1932年に西沙諸島の領有を主張、1933年に南沙諸島7島を占領し、コーチシナ（仏印：ベトナム）に編入。
1939	日本軍、海南島上陸、西沙諸島を占領。日本、南沙諸島を新南群島として台湾総督府に編入し支配。～1945年8月日本の新南群島占領終了
1945	中国台湾省、西沙諸島の林島に中華民国国旗掲揚
1946	5月、フランス、軍艦派遣し西沙諸島占領。9月、中国が西沙・南沙・東沙諸島を接收
1948	中華民国が「U字線」を明記した最初の公式地図「南海諸島位置図」を刊行
1951	新中国（中華人民共和国）が外交声明により公式に南シナ海の領有権主張
1951	サンフランシスコ平和条約調印、日本は「新南群島・西沙群島」を正式に放棄
1956	台湾、南沙諸島の太平島に再上陸、南沙諸島の主権表明
1959	南ベトナム（ベトナム共和国）、中国漁民を強制排除しクレセント諸島の複数の島礁を獲得、ホアンサ群島（西沙諸島）に対する主権声明。
1969	国連アジア極東経済委員会（ECAFE）が、黄海・東シナ海・南シナ海の大陸棚に豊富な石油・ガス資源が埋蔵されている可能性がある旨を指摘
1970	中国はパラセル諸島（西沙諸島）の東部を支配下に置く
1971	フィリピン軍、スプラトリー諸島コータ島・パガサ島に駐留、自国領土に編入
1973	南ベトナムは、海外の有力企業に南シナ海からシャム湾に至る鉱区の試掘権与え、資源の存在を確認し、トンキン湾での試掘の意図を表明。
1974	中国がパラセル諸島全体を支配下に置き、その直後にベトナムはスプラトリー諸島の6島、フィリピンは5島を占拠。
1981	マレーシア、この年以降スプラトリー諸島のスワロー礁等3つの岩礁を占拠
1987	中国、フィリピンに南沙諸島（スプラトリー諸島）の主権放棄を要求
1988	スプラトリー諸島のジョンソン礁（赤瓜礁）をめぐって中越間に軍事衝突が起こり、勝利した中国はジョンソン礁を含むいくつかの島礁を占拠
1992	ASEAN外相会議、南シナ海に関する宣言採択
1994	中国が南沙諸島のフィリピン側海域のミスチーフ礁（美濟礁）に構造物を建造し占拠
1996	中国、海洋法条約批准、西沙諸島に領海基線適用、ベトナムと対立
1998	ベトナムが2つの島礁を占拠。中国はミスチーフ礁の構造物を増築
1999	フィリピンが2つの島礁を占拠
2002	中国とASEAN諸国が「南シナ海における関係国の行動宣言」を採択
2004	ベトナムがスプラトリー諸島の島に滑走路を建設
2007	台湾が太平島に滑走路を建設
2011	中国、南シナ海で最大級の軍事演習
2011	中国・ASEAN、行動宣言の履行に関する指針合意
2012	フィリピン、スカボロー礁での中国漁船検挙を契機に両国監視船が対峙
2013	フィリピン、パラワン島軍事基地を米軍と共同使用、2014年、比・米軍事基地協定調印
2014	中国・ASEAN外相会議、南シナ海での紛争回避の行動規範の早期策定で合意

【出典】国立国会図書館・外交防衛調査室「南シナ海・スプラトリー諸島への各国の進出状況」2015.7／小谷俊介「南シナ海における中国の海洋進出および「海洋権益」維持活動について」『レファレンス』2013.11.／浦野起央「南シナ海の領土問題【分析・資料・文献】」（三和書籍2015.6発行）を基に宮本徹事務所作成。